

# わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？  
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



つどいの場 きららの里

代表 山本 磯子 さん

今回は、市内で人々が気軽に集える場づくりに取り組み、内閣府が紹介しているエイジレス・ライフ実践事例に選ばれて表彰状を授与された、つどいの場きららの里代表の山本磯子さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、つどいの場きららの里での活動について教えてください。

山本磯子さん(以下「山本」)：きららの里は、誰でも自由に過ごせる場として古民家を借りて月9回開放しています。毎回15人程度の人が集まって手芸や編み物を教え合ったり、囲碁を楽しんだりして、集まった人たちが家族のように過ごしています。昼食は自宅の畑で採れた野菜などを使ってみなさんに振る舞っています。

## 人とつながり、楽しみを共有する

情：古民家を自身で借りてまで集いの場を立ち上げようと思われたのはなぜですか。

山本：退職後に始めた高齢者対象の食事会のボランティア活動をやる中で、困り事や寂しさを抱えて生活している高齢者がいらっしやることを知り、高齢者同士が助け合っつながらつながることができる社会を作りたいと、

活動につながっています。人とのつながりや絆作りは、そんなに大げさに考えるものではありません。やれるときにやってみる、深く考えずできることからやってみると、それをきっかけにつながり広がっていくこともあります。まずは自分の好きなことから、つながりづくりの一步を踏み出してみませんか。

情：思ったのがきっかけです。そこで、交通手段がない人でも気軽に歩いて行ける場所に集いの場を作りたいと思い、自宅の近くにある使われていない古民家を借りて活動を始めました。  
情：自家製の野菜で食事を振る舞っているということですが、食事にそこまで力を入れてるのはなぜですか？  
山本：私は高齢者対象の食事会のボランティアを通して食事の大切さを知りました。きららの里では集まった人たちが、その日1日は家族として過ごします。その生活の中でみなさんと食事を作り、大勢で食事をすることで楽しみを共有し、人とのつながりの輪ができていくのだと思います。一人での食事は味気ないですが、大勢での食事は、みなさんの笑顔が最後の味付けになります。家で一人で寂しい思いをしながら食事をしている人はぜひ一度足を運んでいただき、食事の楽しさとおいしさを知ってほしいです。  
情：今後の目標を教えてください。  
山本：この集いの場をなくさないように大事にしていきたいです。ここでは、子どもから高齢者までさまざまな人が集まります。例えば、スマートフォンの話になると

若い人が先生になり、高齢者が生徒になります。違う話になると今度は立場が逆になります。お互いが好きなことや特技で活躍できるこの場所を提供し続けていきたいと思えます。また、いつか自分が誰かを支える側ではなく、誰かに支えられる側になったときに、人とつながることができるとこの集いの場で、みなさんと一緒に会話や食事をするのが夢なので、私の後継者を育てたいと思っています。私が人から教えてもらったことを次の人に渡して、その人がまた次の人に渡して、人とのつながりを循環させていけたらいいですね。  
好きなことをする  
情：それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。  
山本：自分の好きなことや特技をほんの少しでもいいのでアピールしてみてください。そうすると共感してくれる人が少しずつ集まってつながっていきます。自分が楽しくないことや一人だけでやっていることは長続きしません。私は料理が好きでしたから、高齢者対象の食事会のボランティア活動に参加して、そこから今の

## 2月の活動紹介

### オレンジークテカフェ(きららの里)

時 2月27日(日) 11:00~  
場 きららの里(岩作中根57-1)  
申 きららの里(山本:090-1230-4684)に電話で申込。  
他 その他のオレンジークテカフェについてはP.6へ。

「Weeklyながくて」でもつどいの場 きららの里の活動の様子を取材しています。

Weeklyながくては  
こちら

